

農作物病害虫セミナーをオンラインで開催

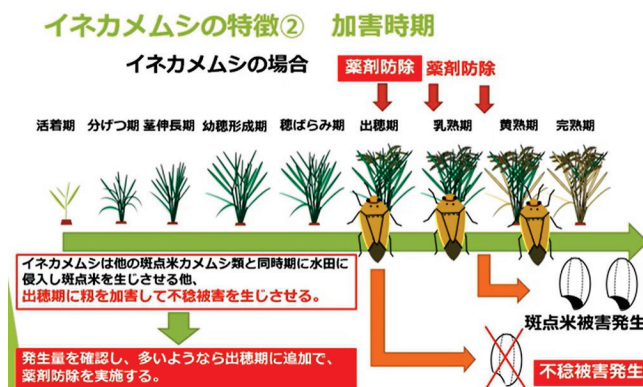
令和6年度の病害虫発生状況や近年問題となっている害虫の解説など、防除に役立つ各種情報を提供するため、農業者及び植物防疫に関わる機関を対象とした「農作物病害虫セミナー」を動画配信形式で、3月10日から23日まで開催しました。

「近年発生が増加しているイネカメムシの被害と防除について」など3課題について、スライドに音声を付けた動画をYouTubeで配信し、延べ128回視聴されました。アンケート結果では「農業者に必要性の高い課題で、わかりやすくまとめられていた」、「イネカメムシと他のカメムシ類との違いが理解できた」などの感想がありました。

当センターでは、今後も様々な方法を活用して、営農に役立つ病害虫発生状況や防除に関する情報を発信していきます。



セミナー視聴ページ



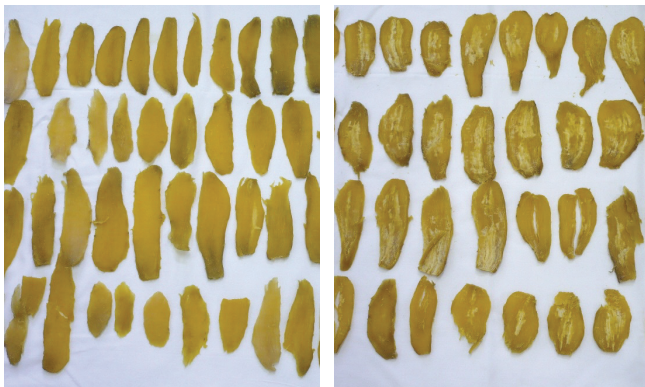
発表課題の動画スライド(抜粋)

干しいも加工用サツマイモ高品質生産のための栽培法

丹後地域の開発農地で広く栽培されている加工用サツマイモには、近年、蒸切後のいもの一部に白斑が生じる障害「シロタ」が発生し、問題となっています。

当所では、「シロタ」発生抑制のため、土壌の水分に着目して試験を実施したところ、かん水の実施時期や量により「シロタ」の発生に差が生じたことから、土壌の乾燥が「シロタ」の発生を助長していることがわかりました。

今後は、現在の主力品種‘べにはるか’を開発農地の土壌で安定して栽培するため、生産者や加工業者と連携し、栽培法の開発を進めていきます。



かん水の実施による「シロタ」発生之差
写真(左):かん水を実施したカンショによる
干し芋試験



蒸切後のいもに白斑が生じる障害「シロタ」

宇治茶の未来を担う若者が巣立ちます

当所では、茶業の担い手確保と、技術や知識に加え経営力を持った人材を育成するため、大正 14 年から技術研修を実施しています。令和 6 年度は、南山城村から入所した 1 名が 1 年間の研修を終え、令和 7 年 3 月 17 日に修了しました。

修了式では、研修生が就農後に直面する課題の解決方法を習得するために 1 年間取り組んできた「プロジェクト研究」の成果を報告し、当所から修了証書を授与しました。

これまでに本研修制度で 204 名の研修生が巣立っており、宇治茶を支える茶業後継者として活躍しています。当所は、今後もより多くの茶業後継者を送り出せるよう努めていきます。



プロジェクト研究の成果を報告する研修生



修了証書を受け取る研修生

研究論文の年間ダウンロード数がトップ 100 に選出

当センターの赤色防虫ネットを用いた持続可能な農業生産技術に関する研究成果論文『Advanced methods for insect nets: Red-colored nets contribute to sustainable agriculture』が『Scientific Reports』誌の 2024 年「TOP 100 Sustainability（持続可能性分野）」に選出されました。

2024 年には 1,200 本近い同分野の論文が掲載されましたが、当センターの論文は、その中で第 33 位に入るダウンロード数(5,429 回)を記録しました。また、昨年同誌に掲載された論文の日本人著者の中では第 1 位となり、国際的にも関心を持たれる研究成果となりました。

当センターでは、今後も府内の生産現場を第一に考え、生産現場での活用につながる研究に取り組んでいきます。



TOP100選出バッジ

京都大学等の学生の視察を受入

3 月 6 日に、京都大学、ボルドー大学、国立台湾大学の学生等約 50 名の視察を、当センター及び京都府立大学附属農場で受け入れました。京都大学では、博士後期課程学生が様々なキャリアで活躍できるように研究プログラムを組んでおり、キャリアパスに地方公務員職も含めるために、選定されたものです。当センターの研究内容、京都府の農業職及び林業職の仕事について紹介した後、当センター及び附属農場の施設を案内しました。

参加者からは、「なぜ、新しい植物ウイルスが京都府で最初に発見されたのか」、「京都府の研究所の話が聞けて参考になった」などの質問や意見がありました。当センターでは、京都府の農業に関する研究所の取組を理解していただくために、今後も学生等の視察受入を続けていきます。



研究概要を説明



キュウリのウイルスの実験施設を案内

成績報告会(サイエンスカフェ salon de 1904)を開催

当センターの令和 6 年度成績報告会を 3 月 12 日に開催しました。今年度は趣向を変えて一般府民を対象にしたサイエンスカフェとして京都府庁旧本館の『salon de 1904』で行い、オンラインを含めて約 30 名の参加がありました。報告会では、ウリ科作物に感染する新しいウイルス病の生態と防除、酒米、黒大豆エダマメ及び金時にんじんの新しい品種開発に関する話題提供を行いました。その後、5 名の研究員から現在取り組んでいる研究内容を紹介し、自由な情報交換(懇話会)を行いました。

参加者からは、「ウイルスに感染したキュウリの形はきれいなのか」、「新しいエダマメ品種に期待しています」、「一般の人への発表会として内容が工夫されていてよかった」などの意見が寄せられました。

当センターでは、今後も生産現場での活用につながる研究を行うとともに、一般府民に対しても農業に関する研究の重要性について理解していただく場を設けていきます。



一般講演の様子



研究員との懇話会

試験研究課題:黄化症状を引き起こす国内初発生 of ウィルスからウリ科野菜を守る～新たなワクチンを利用した総合防除に向けて～

ウリ類の新しいウィルス病の研究成果を

生産者の研修会で報告

当センターでは、府内で新しく発生したウィルス病(CABYV)に関する試験研究を行っています。3月18日には、宇治田原町管内のキュウリ生産者に対して、新しいウィルス病の生態と防除に関する研究成果を報告しました。研修会では、減収率、現状の防除対策等について質問が寄せられ、活発な意見交換を行いました。

今後も、当センターでは、生産現場における課題の解決、新たな技術の普及等に向けて、様々な研究成果を迅速に幅広く発信していきます。



熱心に研究員からの報告を聞く生産者

令和 7 年度の試験研究に向け試験設計検討会を開催

当センターでは、畜産を取り巻く課題の解決につながる技術開発や試験研究を行っており、令和 7 年度は新たに 2 つの研究課題「鰹節搾りかすの鶏用飼料としての活用」及び「地域の特徴を活かした簡便なアンモニア回収技術による鶏糞堆肥化における臭気軽減手法の検討」に取り組む予定です。

3 月 17 日には試験設計検討会を開催し、この 2 課題と昨年度から実施している「稲 WCS 多給及び分娩前栄養水準制限を組合せた高品質乳の生産技術の確立」の計 3 課題の研究計画について、参加者が行政、普及、研究それぞれの立場から協議しました。

参加者から出された「鰹節搾りかすを飼料用に加工して保存する間に成分が変化するのではないか」といった意見を受けて成分分析を試験設計書の項目に追加するなど、この検討会で出された意見を各研究計画に反映させていきます。

当センターでは、畜産の現場に有用な成果を示せるよう、令和 7 年度も試験研究を進めていきます。



検討会での協議

畜産センター

研究成果を生かした新たな資源管理の取組み

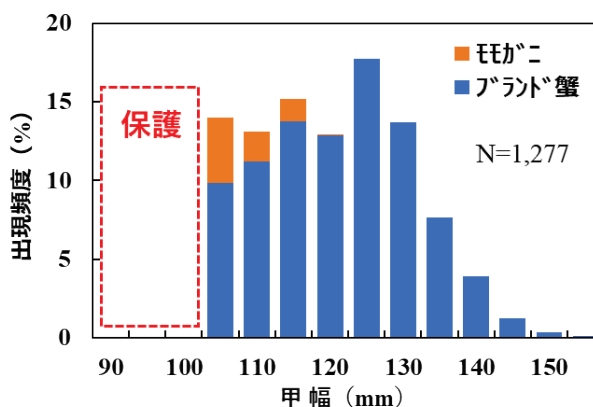
令和 6 年度ズワイガニ漁が 3 月 20 日に終了し、漁獲量は雄ガニ 36.9 トン(前年度比 103%)、雌ガニ 22.4 トン(同 102%)でした。当センターでは資源評価調査の一環で、毎年水揚市場で雄ガニの甲幅測定を行っています。雄ガニは農林水産省令により甲幅 90 mm 未満の漁獲が禁止されていますが、漁業者の自主規制により前年度漁期からは甲幅 100 mm 未満、今年度漁期からは 105 mm 未満の雄ガニの漁獲が禁止となりました(下図)。

この取り組みは当センターが実施した研究課題「ブランド蟹の安定供給に向けた資源管理手法の確立(R2-R4)」の成果に基づき実践されました。研究成果の一部は日本水産学会誌に掲載され、学術的にも評価された成果が現場で実践された事例となりました。甲幅 105 mm 未満の漁獲制限は、これまで漁獲されていたモモガニ※の約 60%(R1-R4 平均値)の保護につながり、この取組みにより、今後、より大型のブランド蟹の安定的な漁獲が期待できます。

※モモガニ:脱皮・成長途上にある未成熟な雄ガニ。市場価格はブランド蟹の約 20%



市場で厳しく選別されるブランド蟹



水揚げされた雄ガニの甲幅組成